

ネット社会の子育てアドバイス

インターネットの現状と対策 松田さんが事例紹介

ライフサポートセンター東部主催（富士宮市教委など後援）の講演会「青少年を取り巻くインターネットの現状と対策」が9日、富士宮市役所で開かれ、NPO法人イーランチの松田直子理事長を講師にチェンメールやコミュニティサイトで起きている事例を紹介しながら、ネット



ネット社会での子育てについて話す松田さん

松田さんは、インターネットと結ばれる携帯電話の子供たちの所有率が、高校生になればほぼ100%になるという現実を踏まえ、ネット社会が生む犯罪と子供たちが隣り合わせにいる現実を、保護者はしっかり受け止めて対処する必要性を提起。

その上で、チェンメールによる「いじめ」、教室内での「いじめ」（暴行）の映像、プライバシーに関わる映像が遊び感覚で出回り、悲劇を生んでいる実態、子供たちが本人にかか

わる個人情報が無防備に書き込むコミュニティーサイトの危険性などを紹介した。

こうした悲劇は家庭内のちょっとした親子のトラブルが引き金となり、取り返しのない深刻な事件に巻き込まれるケースもあるとした。

松田さんは、ネット社会や情報技術が無くなるわけではなく、「要は活用の仕方にある。子供の発達段階に応じて、ネット社会の持つ危険性を知らせることが重要」と指摘。

具体的手法として、危険を伴うサイトの「閲覧防止装置」（フィルタリング）を安易に親が解除することなく、これに守られながら、携帯電話やパソコンの活用方法を指導するようアドバイスした。

最後に「自己責任において、情報を主体的に取り扱えるような大人に育てること。何かあったら子供から相談される親子関係を築いてほしい」と締めくくった。